

## 神の愛 イザヤ 40:1-11

1. 「慰めよ。慰めよ。わたしの民を。」とあなたがたの神は仰せられる。「エルサレムに優しく語りかけよ。これに呼びかけよ。その労苦は終わり、その咎は償われた。そのすべての罪に引き替え、二倍のものを主の手から受けたと。」(40:1-2)
  - a. イザヤ書の最初の 40 章を読んでいたなら、ここから預言の内容や文体が変化していることに気付く。このことからイザヤ書は複数の著者によって書かれたのではないかと推測する人たちもいる。
  - b. イザヤがこの章で語っていることは、1 節に見られるように、かつて裁きをもたらした罪の代価が今やすべて支払われた、という慰めのメッセージである。
  - c. この慰めというテーマはいつでも神のご計画でありメッセージである。私たちがまた、犯した罪により裁きのもとにあったが、ここでイザヤが言っているように私たちが神から受けるメッセージは神の慰めであり、それは神が大きな愛をもって私たちが自分で償えなかったものをすべて贖ってくださった、ということである。
  
2. 荒野に呼ばれる者の声とする。「主の道を整えよ。荒地で、私たちの神のために、大路を平らにせよ。すべての谷は埋め立てられ、すべての山や丘は低くなる。盛り上がった地は平地に、険しい地は平野となる。このようにして、主の栄光が現わされると、すべての者が共にこれを見る。主の口が語られたからだ。」(40:3-5)
  - a. これはイエスの地上でのミニストリーに先立ちその道を整えたバプテスマのヨハネが引用した言葉である。
  - b. バプテスマのヨハネのメッセージの中心は悔い改めであった。ただしここで語られているのは王の入場という場面である。それはただの王ではなく王の王であり、すべてが平らにされまっすぐにされるという状況である。
  - c. 神の愛が明らかにされる時、神の義がもたらされる。イエスの初臨に際しヨハネが悔い改めを通して人々の心を整えたのは興味深い、それはおそらく神の義というのは神の怒りと密接な関係があるからかもしれない。
  - d. イエスの再臨に関しても同じように備えるべきである。初臨の際には人々はへりくだり悔い改めをもってイエスをお迎えした。
  
3. 「呼ばわれ」と言う者の声とする。私は、「何と呼ばわりましょう。」と答えた。「すべての人は草、その栄光は、みな野の花のようだ。主のいぶきがその上に吹くと、草は枯れ、花はしぼむ。まことに、民は草だ。草は枯れ、花はしぼむ。だが、私たちの神のことは永遠に立つ。」(40:6-8)
  - a. 預言者のメッセージは「正しい選び」である。永遠に続くものを選び取りなさい、ということである。この世で永遠の価値があるものは神の御言葉のみである。それなのに私たちははかない、むなしいものを追求するためにどんなに神のことをないがしろにしていることだろうか。
  - b. 私たちを救ってくださった神の愛は、地獄の永遠の火から救ってくださるだけでなく、意味なくはかないのちからも救ってくださる。神はよりすばらしいもののために私たちに召してくださった。
  
4. シオンに良い知らせを伝える者よ。高い山に登れ。エルサレムに良い知らせを伝える者よ。力の限り声をあげよ。声をあげよ。恐れるな。ユダの町々に言え。「見よ。あなたがたの神を。」見よ。神である主は力をもって来られ、その御腕で統べ治める。見よ。その報いは主とともにあり、その報酬は主の前にある。主は羊飼いのように、その群れを飼い、御腕に子羊を引き寄せ、ふところに抱き、乳を飲ませる羊を優しく導く。(40:9-11)
  - a. イエスの愛は私たちを導き、養い、報酬を与えてくださる。何とすばらしい愛、何とすばらしい御約束だろうか。
  - b. あなたは今、何に従い、何を受け入れ、何を追い求めていますか？ 神のためではないこと、あるいは神に敵対することをしながらも、「私はすべてをかけて神を愛します」と言うことはできるだろう。しかし私たちが本当に愛しているものというのは私たちが選び取るものの中に表れるものである。この世のものとは内面、外面から断ち切って、神の御国だけを追い求めていこう。